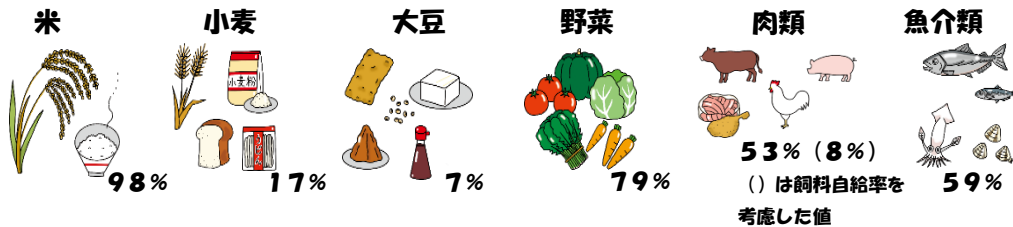
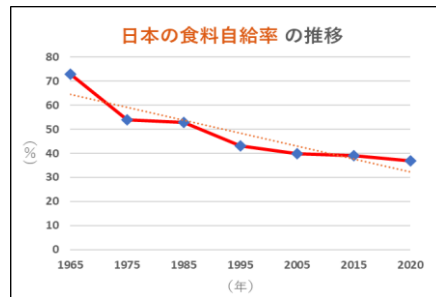
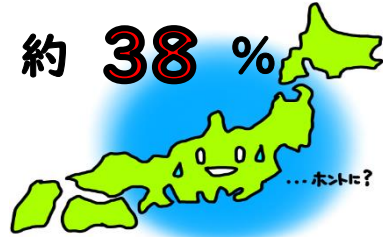




11月24日は「いい日本食の日」とかけて「和食の日」です。また前日の23日は、古くはお米の収穫を祝う日だった「勤労感謝の日」です。しかし、今、日本の食料自給率は、食事から得られるエネルギー量を基準にした「カロリーベース」という計算法で38%になっています。もし何かの事情で外国から食べ物が入らなくなってしまうらと思うと不安ですね。品目によっても国産で十分まかなえるもの、外国に大きく頼っているものがあります。日本の食の姿を知り、わたしたちにできることを考えてみましょう。

日本の食料自給率は

約 **38%**



食料自給率とは、その国で食べている食料のうち、どのくらいが国内でまかなえているかをあらわす割合です。

外国の食料の ↓ 輸入がとまると...

日本国内の人々が生きていくだけの食料が足りなくなり、私たちの食生活は成り立たなくなります。そのため国は、食料の多くを輸入に頼っている現状に危険感を抱き、食料自給率の向上に向けた対策を打っています。

- ① 米文化の推進
- ② 農業の担い手の開拓
- ③ 地産地消の推進



～11月の給食の目標～ 地産地消について知ろう



地産地消とは、地元で生産されたものを地元で消費する（買って食べる）ことをいいます。茨城県は、いろいろな農産物を栽培している全国有数の農業県です。八郷地区には、直売所が各地にあり、畑や田を営んでいる家庭も多くあるため、地産地消を進めやすい地域だと思います。八郷地区産や茨城県産の地場産物を活用しましょう！

生産者の顔がわかる!

→安心・安全な食材

新鮮な旬の食べ物
を味わえる!

輸送エネルギー節約

→費用節約・環境

地産地消の メリット

地域の活性化

農業に対する理解が
深まる!

食料自給率の向上



毎月第3日曜日は「茨城をたべよう Day」

そこから始まる一週間は「茨城をたべよう Week」

★11月の茨城をたべよう Day・Week は、20日(日)～26日(土)です。

「茨城をたべよう」運動とは・・・

2011年に起きた東日本大震災や福島第一原発事故の影響により、地産地消の取り組みが危機を迎えました。そこで、県民が団結して、生産に携わる者は安全・安心の確保に努め、加工・流通に携わる者は地場産物を積極的に利用し、食育に携わる者は食文化の次世代への継承に務め、消費者は地場産物に愛着を持って消費に努めるなど、県民全体が食べて応援しようという運動です。

学校給食では、この期間に茨城県産の食材がたくさん登場します。

お楽しみに!